

V. 特記事項

1. 「デジタルを活用した大学・高等教育高度化プラン」補助金(DX補助金)

<構成>

令和2(2020)年度からDX補助金を文部科学省より採択された。これに令和3(2021)年度私立学校情報機器整備費(遠隔授業活用推進事業)補助金(遠隔補助金)を加え、COVID-19状況下での遠隔授業等を行うために必要な環境の整備および新たな授業手法の導入を行った。学生の効果的な授業への参加や事前事後学習にデジタル教材やeラーニング教材の製作体制を充実させ学びの高度化と質保証を目指し次の目標を設定している。

●目標A: Learning Management System(LMS)中心の学習環境整備

3キャンパス間でLMSが共有されるようシステムの構築と授業環境の整備を行なった。

●目標B: 3キャンパス間を結ぶICT環境整備の強化

ICT環境を整備した後、構築されたICTを教職員が活用できるよう令和3(2021)年8月のFDでDX推進計画を共有し、新しい教育DXシステムを体験する機会を持った。

●目標C: LMSとe-ポートフォリオを統合し、学生のキャリア支援を強化する

本学で使用しているLMSは主にWeb Classであるが、この機能にe-ポートフォリオの「成長確認シート」などの機能を移行し、入学から卒業までの学生個人の成長や学習内容を同一のプラットフォームで管理ができ、キャリア活動などに有効活用できるようにした。令和4(2022)年度にシステムの統合を行い、1年生から利用できるようにしている。

●目標D: パフォーマンス評価の材料の蓄積を可能とする授業支援システムの構築

ICTで利用できるeラーニングの教材作成については、本学の尼崎キャンパスで業務委託により教材作成支援を全学部の教員を対象に行っている。eラーニング教材の撮影・データ化・LMSおよびe-ポートフォリオでの活用について企画段階から相談を受け教員支援を行っている。作成された教材は大学の資産として電子的に管理され活用している。

●目標E: 事務処理運営のDX化による効率性の向上

本学院理事長が主催する学院構造改革本部会議において、事務処理の効率化についても議論を重ね、今後、事務処理システムの構築について検討する予定である。

<今後の課題と展望>

今回のDX補助事業では、目標A~Dの達成を推進してきた。COVID-19の世界的蔓延の状況下で半導体供給不足とシステム開発に関する要員不足の状況のため令和4(2022)年度繰越措置確認の通知があり、本学でも積み残し部分を繰り越す申請をした。本プロジェクトは2022年3月31日で終了したが、当初計画通り、今後は、教学面だけでなく事務処理運営の効率化も含めた全学的なDX化に向けて全学的な情報共有と実施体制の構築を計画している。【資料1】～【資料3】

エビデンス集(資料編)

【資料1】大学改革推進補助金(デジタル活用教育高度化事業)「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」計画調書

【資料2】令和2年度大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)交付申請書

【資料3】DX活用推進プロジェクト最終報告書(令和4(2022)年4月執行部会議資料)